

【報告1】

三次市立小中学校のあり方検討について

1 背景

三次市では、令和4年3月に策定した「三次市立小・中学校の規模及び配置の適正化について」の基本方針に則り、適正化の検討を始める時機の目安となった学校の保護者や地域住民等の関係者に情報提供し、協議を積み重ねています。

今後の児童の推移もお示ししながら、子ども一人ひとりの学びの様子や、激動する社会の中で自立して生きていく力をつけるためにはどうあるべきかという視点で、丁寧な対話を行っています。

近年の社会状況の変化や児童生徒の急激な減少、また昨年度実施した「みよし学びの共創プラン」策定時のアンケート調査でも、保護者・市民、中学生とも、約4分の3が複数クラスを望んでいるという結果も出ています。

こうした状況から、将来の予測が困難な時代においても、自分で考え行動し、多様な他者と協働し、新しい価値や納得解を見つけ、自分や他者の幸せにつなぐために必要な力を子どもたちに身に着けさせる教育環境はどうあるべきか、「学校のあり方、魅力化」として早急に検討していく時期にきていると考えます。

2 基本方針の策定

学校別、地域別の児童生徒数の将来推計やアンケート調査等を実施し、本市の学校のあり方に関する基本方針を策定していくものです。

また、基本方針(案)については、地域等への説明会を行います。

3 策定体制

学識経験者、保護者、学校関係者、各種団体の方、公募市民等20名程度による「(仮)三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を設置するほか、広く意見聴取する取組を検討します。